

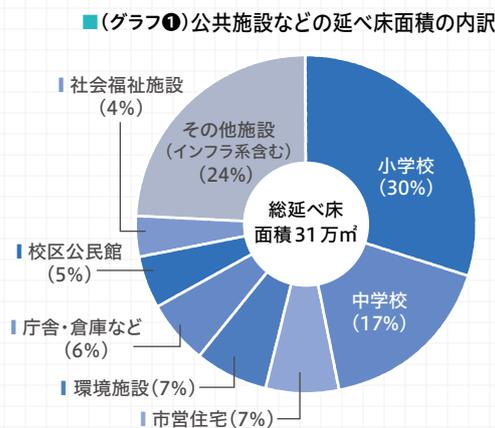
未来の糸島へ 魅力ある公共施設を継承 —適切な維持・管理のための取り組み—

本市では、都市化の進展や市民ニーズに対応するため、学校や公民館、クリーンセンターなどの公共建築物、道路や橋、上下水道などのインフラ施設の整備を進めてきました。しかし、そのような市民生活を快適にする施設も、年月が経てば老朽化が進みます。

市では今後、施設の老朽化に対応するため、経営的視点を含めた管理・活用に取り組みます。

問い合わせ 糸島市財政課 ☎(332)2102

糸島市の公共施設などを
取り巻く現状

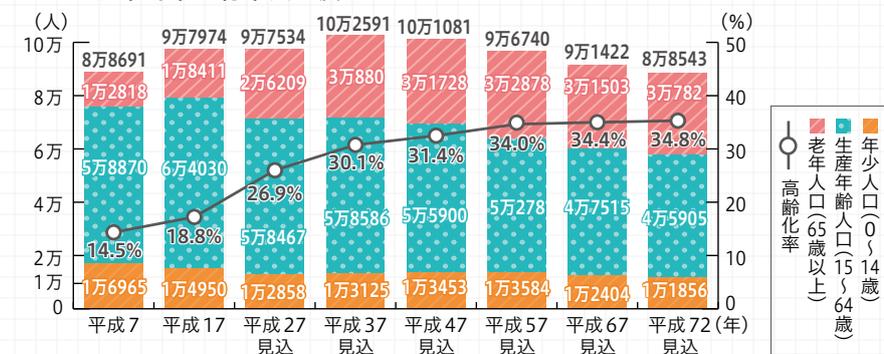


①公共施設などの保有量(グラフ①)
平成27年度末の、公共施設など(建築物のみ)の総延べ床面積は約31万㎡。この約半分を小中学校が占め、市営住宅、環境施設、庁舎・倉庫などが続いています。

②人口推移(グラフ②)
本市の人口は長期的には減少し、少子高齢化が一層進む見込みです。

③財政状況
収入(歳入)は、税収減や交付税の減額などにより減少し、支出(歳出)は、社会保障費などの増加により、施設更新や新規整備に使える経費(投資的経費)の確保が厳しくなる見通しです。

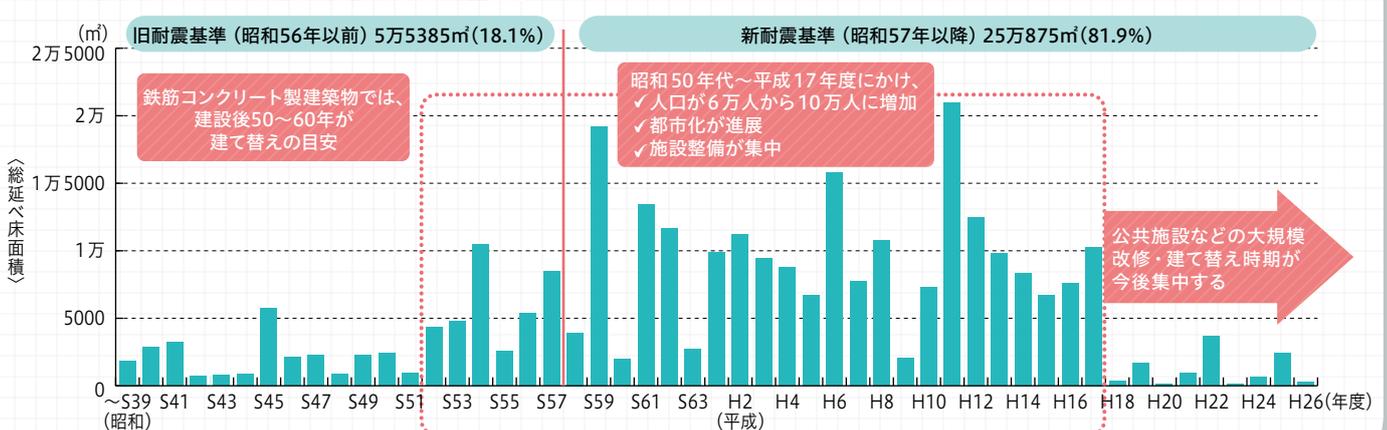
■(グラフ②)糸島市の将来人口展望



出所:まち・ひと・しごと創生糸島市人口ビジョンより
(※内訳には、年齢不詳人口が含まれないため、合計値と一致しない場合があります)

④公共施設などの老朽化の状況(グラフ③)
昭和50年代から平成17年にかけて、人口の増加とともに都市化が進み、多くの施設が建築されています。旧耐震基準で建てられた施設は比較的少ない状況ですが、今後、老朽化は確実に進むため、早めの対策が必要です。

■(グラフ③)糸島市の公共施設などの築年別整備状況

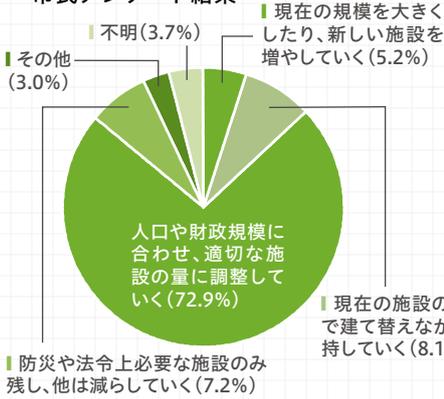


公共施設マネジメントへの取り組み

本市の現状を踏まえると、今ある全ての施設を適切に維持・更新していくことは難しく、今後、市民の年齢構成など社会構造の変化への対応も必要です。

そのため、次世代を担う子どもたちの負担を軽減できるよう、今のうちから計画的に、人口や財政状況にあった施設の量や機能へ調整していく「公共施設マネジメント」に取り組みます。この取り組みの第一歩として、本市では昨年度から施設調査や市民アンケートを実施し(グラフ④)、今年度中に糸島市公共施設等総合管理計画を策定します。

■(グラフ④)公共施設の方向性についての市民アンケート結果



糸島市公共施設等総合管理計画の概要

①計画の対象施設

市が所有・管理する公共施設などのが対象です。

■公共建築物265施設(約29万㎡)

■インフラ施設

・建築物(排水機場など)113施設(1万5000㎡)

・その他(市道、橋、ため池、漁港、上下水道など)

②計画期間

平成72年度(2060年度)まで

③計画の基本理念

「豊かな糸島生活を次世代に継承するための公共施設マネジメント」

↳未来の糸島へ向けた質・量・コストの最適化

④公共建築物の基本原則

■量を減らす(総量縮減)

将来的な更新・改修費用を縮減するため、公共建築物の総延べ床面積の削減に取り組みます。

■組み合わせる(複合化)

利便性の向上や施設の有効活用により、将来的に必要なサービスを維持するため、公共建築物の集約

化や複合化に取り組みます。

⑤インフラ施設の基本原則

■長く使う(長寿命化)

■費用を抑える(費用抑制)

パブリックコメントの実施

本年12月に、糸島市公共施設等総合管理計画(案)を、市役所や公民館、ホームページなどで公表してパブリックコメント(意見公募)を実施し、その意見を計画に反映します。

アクションプラン作成

平成29年度からは、おおむね10年

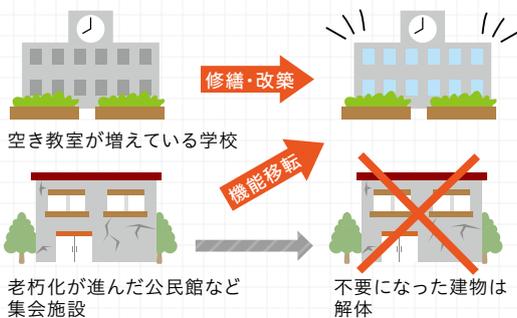
を1期とする第1次アクションプラン(仮称)の策定作業に入り、具体的な個別の公共建築物について基本原則に基づく行動計画を作成します。

市民協働による推進

今後は、財政状況が厳しい中でも、次世代に必要な施設については整備しつつ、一方で大きな負担は残さないよう、真に必要なサービスの維持、地域の元気が集まるような拠点づくりを図る必要があります。

最も身近な利用者である、地域の皆さんと一緒に考えていくことが大切ですので、ご協力をお願いします。

公共サービスの集約化・複合化イメージ



複合施設化による拠点施設形成のイメージ

